

平成27年度前期芦安中学校学校関係者評価書

平成27年9月14日

芦安地区学校関係者評価委員会

委員長 林 雄二



1 経過

第1回芦安地区学校関係者評価委員会

日時：平成27年8月28日(金) 19:50～21:30

場所：芦安中学校 多目的ホール

2 参加者 評価委員6名 小学校3名 中学校3名

No.	氏名	役職名	備考	
1	秋山 栄男	芦安子を守る会会長		
2	森本 薫	芦安小中学校PTA副会長	副委員長	
3	林 雄二	芦安小中学校PTA会長	委員長	
4	森本 章雄	学校評議委員 芦安地区学校応援団代表		
5	清水 准一	学校評議委員 NPO 法人芦安ファンクラブ事務局長		
6	深澤 米男	南アルプス市議会議員		
7	内藤 和彦	芦安小学校	校長	
8	深澤 茂弥		教頭	事務局
9	奥石 みさを		教務主任	
10	中込 幸二	芦安中学校	校長	
11	笠井 知幸		教頭	事務局
12	早川 武浩		教務主任	

3 学校から提案された内容

[前期中学校自己評価の分析と改善方策]

- (1) 前期(7月)職員アンケート結果
- (2) 前期(7月)生徒アンケート結果
- (3) 芦安中学校教前期自己評価書
- (4) その他

4 協議された主な内容

- (1) 学校の様子全般についての意見・質問
- (2) 前期アンケート結果についての意見・質問
- (3) 自己評価の結果を踏まえた今後の芦安地区の教育のあり方について 意見・要望

5 評価委員会で出された主な意見・質疑

(1) 学校の様子について

- ①地区外からの通学者は何人いるのか。どういう生徒が通っているのか。その中に英会話を学びたいという生徒はいるのか。
→在籍20名中、地区外は7名。皆英会話を学びたいと思っている。
- ②「いじめ」か否かの判断は慎重に行ってほしい。
→集団生活の中でのトラブルにより、人間関係がこじれてしまったケースでは「言った」「言っていない」や「そう感じる」「そんな雰囲気はない」などの行き違いや思い込みが高じたケースがあった。時間をかけて慎重に聞き取りなどを行って「いじめ」ではないと判断した。また、「いじめたり、仲間はずれをした」という1名の生徒は、自分の乱暴な言動が仲間に及ぼした嫌な思いのことを回答したと思われる。
- ③芦安の特色である登山体験は、大変有意義なものである。今年は仙丈ヶ岳で、生徒が生き生きとしていたように思う。行きやすい山でゆとりがあり、行程もスムーズだったからであろう。泊数を増やして、ゆとりある体験をしてほしい。
→検討したいと思うが、実施時期や行事の関係で現実的にはなかなか難しい。

(2) 小・中学校共通として出された意見・質問

- ①熊の目撃情報が、すでに3件あった。地域でも気を付けて児童生徒を見守っていくが、自助努力として、熊鈴を付けることや防犯ブザーの活用の指導を徹底してほしい。
- ②児童数の減少から、他地域から通う児童が増加している。英会話科の指定校並びに、自然体験推進校であることに魅力を感じての選択であろう。児童が増えることで芦安小中の活性化・存続につながっている。ただ、児童生徒数の増加は、新たな課題も生ずる。職員間で子供理解に努め、保護者、教育委員会、その他の関係機関と連携し、対処していく必要がある。
- ③関係者評価委員会の開始時間が遅い感がある。重要な内容の会議のこともあり、開始時間を早めて欲しい。今日は保健委員会も開催したので、日にちをずらせた方がよいのではないか。
- ④芦安小中は、ユネスコスクールである。市がユネスコエコパークに登録された経過もあるが、芦安の特性を考慮し、特色ある教育活動を展開して行ってほしい。
- ⑤資料の当日配布は、急に渡されても内容を読み込んでいないので、発言も深まらない。せめて数日前に貰えるとありがたい。
→後期学校関係者評価委員会では、1週間くらい前に届けるように考えている。

(3) 今後の芦安地区の教育のあり方について

- ① 今までの取組を継続し、さらに発展させてほしい。
- ② 小中の連携をさらに深めていってほしい。
- ③ 地域の活性化に向け、教育課程（英会話科）だけでなく、住みたくなる様な条件整備（住居・交通網）を考えていくことが必要ではないか。
- ④ 人口減少が心配されるが、子どもの中には将来この地に戻ってきたいと考える子もいる。また、こうなってくれるとありがたい。

6 分析・評価

芦安地区学校関係者評価委員会において、「学校経営方針」「学校グランドデザイン」に沿って行われた自己評価（職員・生徒）の項目から、達成度や充実度にバラつきはあるが、全体的に調和のとれた教育活動が進められていることが確認できた。また、昨年同期と比べても若干ではあるが全体的には評価は高くなっている。

いろいろな生徒がいる中で、十分な対応は難しいかもしれないが、可能な限り取り組んでもらいたい。評価が高かった項目は今後も伸ばしていき、課題となった項目については2学期以降の重点指導項目として、改善につとめてほしい。